

<第1分科会 事例発表>

「高津小学校の誇り～文楽学習とPTAとの関わり」

事例発表者 令和3年度 大阪市立高津小学校PTA(中央区)

会長 吉田宏興

はじめに

高津小学校は1872年(明治5年)9月、南大組第2大区12番小学校として創立されました。その後、1887年(明治20年)4月、大阪市立高津尋常小学校に改称され、今年度創立150周年を迎える歴史と伝統のある学校であります。

高津地域は1つの連合振校町会、1校下であることから地域とのつながりも大変根強く、わいわい祭り、防災訓練、もちつき大会などの行事は、学校とPTA・町会が協力し子ども達はもとより地域の方々にも参加して頂き盛り上げています。

(令和2年～3年は全て中止となりました)

地域の繋がりには他にも高津宮の夏祭りで、子ども神輿とともに子供とPTA父兄と一緒に参加、黒門市場でのお店体験では保護者の参観形式になっています。

国立文楽劇場は高津小学校・旧敷地跡に建設され、人形浄瑠璃発祥地が近く、一時は歌舞伎の人気に押されて廃れつつあった文楽人形浄瑠璃の系統を引き継ぎ、高津橋に座を作り再興した歴史つながりで、2000年(平成12年)PTA、連合町会の働き掛けにより高津子供文楽が始まりました。当時のPTA役員の方のお話では、単発的な地域交流が目的だったそうですが実際に体験を通して子供達はとても関心を示し、熱心に取り組む姿勢をみてPTA・連合町会が文楽委員会を発足させました。翌年2001年(平成13年)には人形浄瑠璃・文楽学習が始まり学習発表会で6年生による発表が行われました。

*子ども文楽学習について

練習の様子(太夫)

太夫とは浄瑠璃の語りのことです。教えていただく技芸員の先生は、六代目竹本織大夫先生です。子供たちは複数人で交代で演目を語ってゆきます。



(三味線)

三味線は鶴澤清公先生・鶴澤清軌先生に教えていただきます。
大人用の三味線を小さな子供が扱うため大変に難しいようです

(人形)

人形遣いは人間国宝の桐竹勘十郎先生と桐竹勘次郎先生です。人形は主遣い・足遣い・左手遣いの3人で一つの形を生きているように動かします。3人の呼吸を合わせないと自然な動きにはなりません。



(笛)

藤舎次生 先生に教えていただきます。

以前までは先生が吹いてくださっていたようですが、子どもたちだけで作り上げる文楽という事。今では先生の指導のもと、頑張っているようです。

平成13年度に始まった文楽からは、太夫に弟子入りした高津小卒業生の豊竹咲寿太夫さんがご活躍されています。

地域・PTAの支援

子ども文楽委員会 高津地区まちづくり推進協議会からなる地域・PTAによる文楽支援などを行うPTA会長を会長とした委員会です。

文楽委員会 (PTA)

夏季休業中に文楽の練習を行う際に、6年生の父母が技芸員の先生方に謝意を表して茶菓をお出しします。役割分担や日時の割り当てなど文楽委員長がディスカッションして決めています。挙手してくださる方も多く、委員長はスムーズに決めることができましたとの事でした。発表当日は太夫・三味線の子供が袴を着るため、それまでに着付けの練習が数回あります。保護者は着付けの先生に習いお手伝いします。衣装の管理なども文楽委員が行います。

